

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果報告書
(平成29年度実績)

平成30年12月

平生町教育委員会

＜目 次＞

はじめに	P 1
学校教育		
主要な施策の成果	4
学校施設整備事業	7
学力向上推進事業	9
生徒指導環境整備事業	11
学び支援事業	13
平生っ子学びのイノベーション推進事業	15
社会教育		
主要な施策の成果	17
堀川南蛮樋門改修事業	22
平生いきいき大学講座事業	24
歴史講座事業	26
平生町郷土かるた作成事業	28
スポーツ推進事業(町内駅伝競走大会)	30

【はじめに】

1 趣旨

少子・高齢化や高度情報化の進展など社会情勢の急激な変化に伴い、子どもたち一人ひとりが抱える課題が複雑化、多様化する中で、いじめの深刻化や規範意識の低下など多くの問題も指摘されています。このように時代が大きく変化中、本町教育委員会では、第四次平生町総合計画において、「みんなの笑顔が輝くまち」という基本目標のもと、学校や地域において具体的な事務事業に取り組んでまいりました。平成23年度からスタートした前期基本計画の5年間の検証と施策の見直しを行い、後期の基本計画を策定し、平成28年度から取組を進めています。

また、平成27年の教育委員会制度の抜本的な見直しにより、「総合教育会議」の設置と「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定が義務付けられ、本町においても、「総合教育会議」を開催し、平成27年6月に「教育振興基本計画」を策定したところです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

そこで、本町教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政を推進するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、平成29年度の事務事業について、点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象及び期間

点検・評価の対象事業は、「平成29年度平生町の教育」基本方針の努力点及び「平成29年度各課の基本的な考え方」の重点事項、その他の主要な事業から選定しました。

点検・評価の対象期間は平成29年4月から平成30年3月までとしています。

3 点検・評価の方法

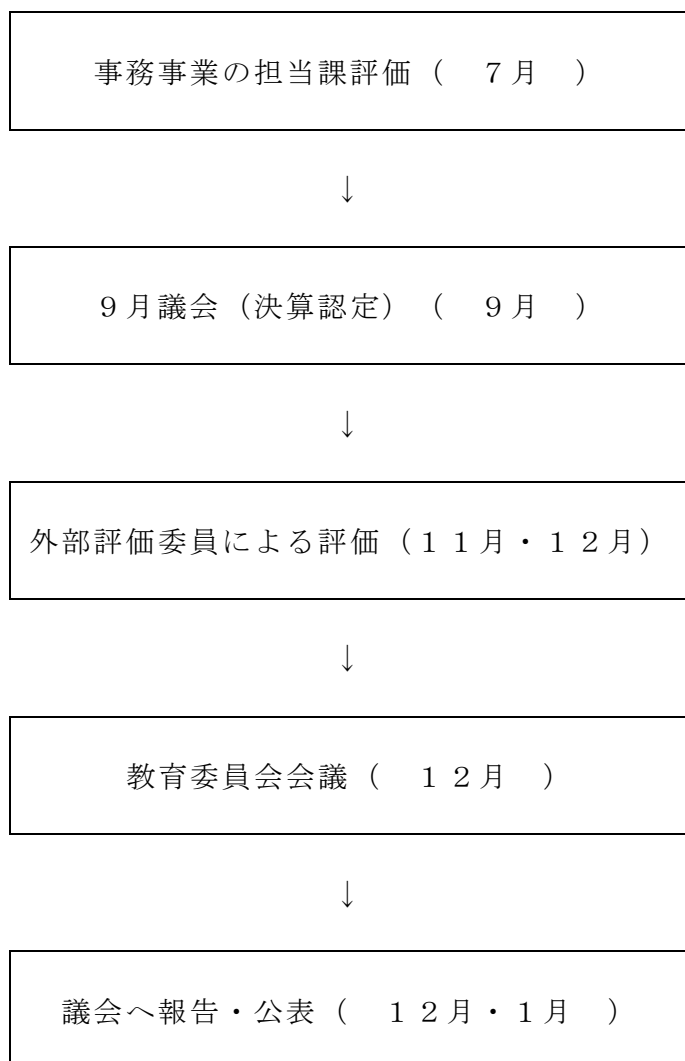
今年度も、昨年度と同様に教育委員会による自己評価と併せ、教育行政評価委員による外部評価を実施しました。

法第26条第2項の規定による教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

(敬称略)

氏 名	所 属 等
清 時 学	医療法人光輝会理事
中 田 政 明	ひらお保育園長
福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の所管する事務の点検・評価については、教育委員会独自の自己評価（内部評価）に併せ、外部評価委員（教育行政評価委員）による対象事務事業の成果等の点検・評価を行いました。

平成29年度の学校教育の基本方針「未来を拓く たくましい『平生っ子』の育成」に基づき、引き続きICT機器を導入し、その効果的な活用により、学力の向上を図ったほか、子どもたちの自発的な学習意欲を支援するため、学び支援事業の実施、英語指導助手2名体制での英語教育の充実、特別支援教育の充実、幼・小・中の連携強化、キャリア教育の充実、家庭や地域との連携・協働を進めるコミュニティ・スクール事業、就学に関する支援などソフト事業を推進しました。

また、老朽化の進んだ学校施設の改修・修繕など、安全・安心な教育環境の整備に努めました。

社会教育の基本方針は「学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進」とし、青少年健全育成活動や子ども会活動の充実、生涯学習の推進として、町民憲章の具現化に向けた取組、まちづくり出前講座の実施、生涯学習サークルの紹介、人権学習講座の開催、町指定文化財「堀川南蛮樋」の改修、図書館まつりの開催、子どもたちの郷土を愛する気持ちを育む、平生町郷土かるたの作成、生涯スポーツの推進に努めるなど、ソフト・ハード両面において事務事業を推進しました。

評価対象事業については、新規事業を加え、継続事業を削除するなど、対象事業の整理を行い、学校教育、社会教育合わせて10事業としました。

今回、学校教育及び社会教育の10事業について、まず、事業の必要性、有効性、経済・効率性、目標達成度の視点でもって、内部評価を行いました。

各事業は目標どおり、あるいはほぼ目標どおりに進捗しているという評価をし、この内部評価をベースに教育行政評価委員による評価が行われました。

教育行政評価委員からは、個別事業について、それぞれ意見が出されました。また、教育行政全般については、次のような意見が出されました。

- ・他の検定試験がある中、英語検定に特化し、受検料を助成されているが、平生町の教育の特色であると思われるので、受検奨励と併せ、もっとPRしてもいいのではないか。

- また、小・中学校において、ICT化が進んでいるが、これも平生町の教育の売りになる部分である。これら平生町の教育の特色をもっと情報発信し、「平生町、いいね!」と言える環境づくりを積極的に進めてほしい。

- ・人口定住に向けた取組として、ソフト・ハード両面の教育環境の整備は重要であるので、重点化することと併せて、町の特色、学校の魅力を積極的に情報発信してほしい。

- ・子どもたちの育ち、学びに係る様々な取組が行われているが、地域がその取組の受け皿になることができるのではないか。地域の力をもっと活用して、学校、家庭、地域が一体となった取組を今後も進めてほしい。

個別事業に対する委員の意見を踏まえながら、上記の全般的な意見を次年度以降の施策に反映させていきたいと思っております。

学 校 教 育

学校教育

基本方針『 未来を拓く たくましい 「平生っ子」の育成 』

学力の向上と確かな「生きる力」の育成

・町の**学力調査**は、小学校3年生～小学校5年生、中学校1、2年生を対象に、全国学力・学習状況調査の実施日に、国語、算数・数学の教科を実施した。この調査により、年度当初に、対象学年の児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、その後の児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立て、併せて学校と家庭が課題を共有し、その課題解決に向けて連携して家庭学習等の充実を図ることで、学力の向上に資することができた。

・図書館司書の資格所持者を**学校司書**として小中3校で2名継続配置した。児童生徒と本をつなぐ役割を担うとともに、司書教諭の補助的な役割を担ってもらい、学校図書館の充実を図った。

・**平生っ子学びのイノベーション推進事業**として、29年度は、平生小学校にモニターテレビ、書画カメラ、平生中学校に電子黒板、書画カメラ及びパソコンを導入し、ICTを活用した「わかる授業」の実践や、児童の「情報活用能力」の育成に努めた。今後も、各校において年次的に整備を進め、学力の向上につなげていきたい。

・**学び支援事業**として、実用英語技能検定の検定料の1/2を助成する制度の実施により、子どもたちの自発的な学習意欲を支援し、学力の向上を図った。

・**英語指導助手**（ALT）2名体制で、中学校及び小学校の英語教育の充実を図った。併せて、ALTによる小学校及び幼稚園における国際理解に関わる活動を行い、幼児期からの取組を進めた。今後も幼小中のつながりを持った英語教育を推し進めたい。

・**スクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業**に引き続き取り組み、課題のある家庭への迅速かつ適切な支援に資するため、専門相談を行い、各学校の実情に応じた指導体制の充実を図った。また、スクールソーシャルワーカーによる「共育相談会」を開催し、教育相談及び就学相談を行った。

・不登校やいじめ防止、あたたかな人間関係づくりのための質問紙調査「**i-Check**」について、小5、6、中1～3を対象に2回実施した。不登校やいじめなどの予防対策に活用している。

・佐賀地区の子どもの減少を受け、佐賀小学校においては、引き続き**複式学級**が1学級（2、3年）設置された。児童及び保護者の複式学級に対する不安を払拭するため、県雇用の補助教員を1名配置したほか、町雇用の補助教員を1名配置し、主要教科の授業は極力複式学級を解体して行うなど、きめ細かな配慮を行った。

また、佐賀小学校においては、小規模校の特性を生かした教育活動を推進している小学校で学びたい、子どもを学ばせたいという希望者に対して、一定の条件のもとに通学区域外からの入学を認め、児童を受け入れる**小規模特認校制度**を設けており、平成29年度は、11名の児童がこの制度を利用して通学した。

今後も特色ある教育活動を行う小規模な学校の一層の活性化を図るため、ホームページ等を活用し、町外、県外に向け情報発信し、この制度の周知に努めたい。

安全・安心な教育環境の整備

・佐賀小において、運動場周辺のフェンス改修工事、プール周辺の石垣改修工事、平生小において、第3校舎の廊下改修工事、第2校舎の天井改修工事、児童・教員等の昇降口改修工事、第2校舎2階の難聴教室及び幼児ことばの教室の設置に伴う改修工事を行ったほか、平生中においては、普通教室棟、管理・特別教室棟の廊下改修工事、防球ネットの改修工事を行った。

平成28年度からの繰越事業として、佐賀小及び平生中の屋内運動場トイレ改修工事、平生小の管理特別教室棟及び普通教室棟（第3校舎）トイレ改修工事を行った。

・遊具点検については、多くの園児や児童が毎日使用する遊具であり、幼稚園、小学校において専門業者による点検を引き続き実施した。

幼・小・中の連携

・**幼小中の連携**については、幼保小中連絡協議会研修会の開催や入学の際の子どもに関する情報交換、授業参観などを実施し、引き続き連携を図ることができた。

幼小連携として、小学生と幼稚園児が相互訪問し、交流を図った。また、小学6年生が幼稚園児と一緒に避難する、幼小合同避難訓練を実施した。

小小連携として、両校児童の交流により、中学へのつながりを持った取組を引き続

き進めた。

小中連携として、町内の全教職員が参加して合同の研修会を開催し、学力向上や授業改善について協議をするとともに、中学校教員による小学校での出前授業を実施することで、互いに高め合い、資質の向上、授業力の向上を図った。

家庭・地域との連携

・町内小中3校において、**コミュニティ・スクール**を設置し、地域と連携した特色ある学校づくりに努めた。

3校の情報提供、情報交換をはじめ、教育委員会からの情報提供を行うため、小中合同の学校運営協議会を設置している。平成29年7月、平成30年2月に会議を開催し、各校の情報提供、情報交換のほか、3校が連携を取りながら、学校と地域が一体となった取組を進めていくことを確認した。

また、幼稚園においても、地域の支援ボランティアによる活動が活発となっており、地域と幼稚園が連携して子どもたちを育成していく体制づくりが進んだ。

特別活動の推進

・**キャリア教育推進事業**では、「ふるさとの先輩から学ぶ講演会」として、5月に建設会社役員による講演会を平生中において開催した。「とにかく何でもやってみよう」と題して、いろいろなことに興味を持ち、チャレンジし続けることが夢の実現につながると生徒たちにメッセージを伝えられた。

子どもたちがふるさとに誇りと愛着を持ちながら、夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう意欲や態度、能力の育成を図ることができた。

就学に関する支援等

・私立幼稚園に就園している園児の保護者への**幼稚園就園奨励費**、小中学生のいる家庭で学用品費、給食費、修学旅行費用などに対して一部助成をする**就学援助費**、児童は片道2キロ、生徒は片道6キロ以上を対象にした遠距離通学者のための**遠距離通学費**など、保護者の経済的負担を軽減するための助成事業を実施した。

就学援助費のうち、新入学児童生徒の**入学準備金**については、従来を支給時期を前倒しして、入学前の3月初旬に支給し、家計の負担が大きい時期に支援をすることとした。

教育の機会均等、義務教育の円滑な推進を図るための重要な事業として継続していきたい。

平成29年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学校施設整備事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	学校施設は、子どもたちの学習・生活の場であり、学校教育活動を行うための施設であることから必要十分な教育活動が行える機能や環境整備を整えとともに、防犯・防災性を備えた安全・安心で衛生的な施設の確保を図る。		
事業の内容	<input type="checkbox"/> 工事 ・佐賀小学校屋外整備工事 ・佐賀小屋外運動場周辺フェンス改修工事 ・平生小学校連絡通路改修工事 ・平生小学校内部改修工事 ・平生小学校難聴教室改修工事 ・平生中学校普通教室棟・管理特別教室棟廊下改修工事 ・平生中学校防球ネット改修工事 <input type="checkbox"/> 平成28年度繰越工事(平成29年度施工) ・佐賀小学校屋内運動場トイレ改修工事 ・平生小学校管理特別教室棟・普通教室棟(第3校舎)トイレ改修工事 ・平生中学校屋内運動場トイレ改修工事 <input type="checkbox"/> 修繕 ・各小中学校及び幼稚園において、老朽箇所、破損箇所等の修繕		
事業の対象	幼稚園、小学校、中学校		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	17,262 千円	13,710 千円	57,116 千円
決算額に占める 特定財源額	6,400 千円	3,700 千円	10,776 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>校舎の老朽化が進み、改修工事、修繕の必要な箇所が増えている中、年次的に工事・修繕を実施することにより、子どもたちの学習環境等の安全を確保している。 各小中学校の衛生面の観点から、国の補正予算を活用し、平成28年度繰越事業で各小中学校のトイレ大規模改修を行った。 今後は、老朽化した学校施設の改修については、平成30年3月に策定した学校施設の長寿命化計画(個別施設計画)に基づき、年次的に改修を進めていきたい。 また、学校衛生管理基準に基づき、普通教室等へのエアコンの設置を進めていきたい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>計画に基づいて年次的に改修を進め、学校の快適な環境づくりに努めてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

平成29年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	学力の向上と確かな「生きる力」を育てます		
事業名	学力向上推進事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	学力向上を図るために、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することに努め、課題解決に向けて、学校と家庭・地域等と一体となった取組を推進する。		
事業の内容	<p>標準学力調査は22年度から実施しており、児童生徒の学習到達度を評価するとともに、個人成績、学校用の資料提供を受ける。</p> <p>また、学力調査と併用して子どもたちが輝くクラスづくりのための総合質問紙調査「i-check」を実施する。</p> <p><標準学力調査の対象学年と教科></p> <p>○小学4年生 国語、算数 ○小学5年生 国語、算数</p> <p>○中学1年生 国語、数学、理科 ○中学2年生 国語、数学、理科</p> <p><i-check:対象学年></p> <p>○小学5年生、6年生</p> <p>○中学1年生、2年生、3年生</p>		
事業の対象	児童生徒およびその保護者		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	463 千円	420 千円	461 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る
			B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>・標準学力調査 小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される全国学力・学習状況調査や県の確認問題等と併せての実施している。昨年度との経年比較により、数値の増加が見られることから着実に学力の向上が見られる。また、学校現場の負担の軽減も着実に図られている。</p> <p>・子どもたちが輝くクラスづくりのための総合質問紙調査「i-check」 平成29年度から、「i-check」により、小5、6、中1～3を対象に2回実施した。不登校やいじめなどの予防対策をはじめ、学級の概要、児童生徒の個々の実態を把握することができ、生徒指導に活用している。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>学力調査の結果を有効活用されるとともに、質問紙調査の個人情報への扱いには注意しながら、教員による日々の観察等、今後もきめ細かな指導をしてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

平成29年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	幼・小・中の連携を重視し、確かな「生きる力」を育てます		
事業名	生徒指導環境整備事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input type="checkbox"/> 単独
事業の目的	園・学校間の連携によるつながる子どもの育ちに向けた取組を充実するとともに、学校における生徒指導、教育相談体制を充実させ、児童生徒の心の成長を促す指導を推進する。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会研修会 心豊かでたくましい「平生っ子」の育成をめざして、園・学校関係者による年3回の協議会や公開保育・授業公開により情報交換を実施。 ・小中合同研修会及び出前授業 小中9年間を見据えた教育を推進するために、小中学校教員参加の合同研修会や中学校教員の小学校への出前授業を実施。 ・i-check(子どもたちが輝くクラスづくりのための総合質問紙調査) 不登校やいじめの未然防止や学校内の人間関係の把握・改善のために、小学5・6年、中学1～3年を対象に総合質問紙調査を実施。 ・SSW(スクールソーシャルワーカー) 課題のある児童生徒や家庭への支援のために、教育委員会にSSW(スクールソーシャルワーカー)3名を配置。 		
事業の対象	佐賀小学校、平生小学校、平生中学校		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	1,250 千円	976 千円	945 千円
決算額に占める特定財源額	516	439 千円	439 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会研修会 園・学校関係者が参加し、取組の成果やそれぞれの課題、子どもたちの状況等について情報交換・協議を行い、幼保小中連携した全町あげでの取組となっている。 ・小中合同研修会及び出前授業 小中の教員同士の情報交換や課題意識の共有化を図るとともに、15歳の生徒像の共有化を図ることができ、今後の方向性について考えることができた。中学校教員による出前授業により、小学校高学年の子どもたちが抱える中学校での生活や授業への不安を解消するための手立てとして有効である。 ・町学力調査結果と『i-check』の相関関係から、学力向上を多角的に捉え、『たくましい平生っ子の育成』を推進していくための取組の方針を考えることができている。また、児童生徒一人ひとりの自己肯定感や規範意識などを把握し、それを生かした学級経営や学級づくりに生かしている。 ・SSW(スクールソーシャルワーカー) 教育委員会に3名配置し、課題のある児童生徒や家庭への支援のために、学校、教育委員会とSSWが連携しながら、対応にあたっている。社会福祉士という専門的な立場からの助言や家庭支援のための具体的な働きかけにより、着実な成果が見られる。
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	子どもの育ちに向けた取組の成果が見られる。今後も継続して取り組んでほしい。
------	---	--------	---------------------------------------

平成29年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	学力向上と確かな「生きる力」を育てます		
事業名	学び支援事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	平生町の子どもたちの自発的な学習意欲を支援するため、英語検定の受検を促し、英語力の向上を目指すこと及び保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的として、検定料助成金を交付する。		
事業の内容	実用英語技能検定の検定料の1/2を助成する。(1年間に1人1回分を助成する。)		
事業の対象	平生中学校		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	— 千円	79 千円	82 千円
決算額に占める特定財源額	—	— 千円	— 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<p>助成金対象の受検者は、3学年合計で63名(1年:15名、2年:18名、3年:30名)であった。年複数回、受検する生徒もあり、延べ受検者は78名で、昨年度に比して、延べ受検数が18名減となった。</p> <p>減少はしたものの、高校生1・2年生レベルの準2級を受検し合格する生徒がいた。</p> <p>また、平成28年度合格率47.9%から65.4%と17.5%上昇し、一定の成果がでていていると思われる。</p> <p>来年度以降も助成制度の周知を図りながら、生徒の自発的な英検受検の意欲を支援していきたい。</p>
事業の方向性	<p><input checked="" type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

外部評価	A	評価委員意見	現在は資格社会であり、英語の必要性が増している。受検勧奨をするとともに、検定料の助成率を上げてほしい。
------	---	--------	---

平成29年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	学力向上と確かな「生きる力」を育てます		
事業名	平生っ子学びのイノベーション推進事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	社会の情報化が急速に進展し、今後も更なる情報通信技術(ICT)の発展が予想される中、学校においてもICTを活用した「わかる授業」の実践や、児童生徒の「情報活用能力」の育成、校務の効率化等のニーズが高まっていることから、学校のICT化を図る。		
事業の内容	平生小学校にモニターテレビ20台、書画カメラ(実物投影機)20台を導入 平生中学校に電子黒板3台、書画カメラ(実物投影機)3台、パソコン3台を導入		
事業の対象	平生小学校、平生中学校		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	— 千円	1,390 千円	1,507 千円
決算額に占める特定財源額	—	— 千円	— 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<p>平生っ子学びのイノベーション推進事業(3カ年事業)として、2年目の平成29年度は、平生小学校にモニターテレビ、書画カメラ、平生中学校に電子黒板、書画カメラ、パソコンを導入し、ICTを活用した「わかる授業」の実践や、児童・生徒の「情報活用能力」の育成に努めた。</p> <p>平生中学校において、電子黒板を活用した授業に関するアンケート調査を実施したところ、約9割の生徒からわかりやすいという回答があり、一定の成果が出ていると思われる。</p> <p>今後、平生小学校にタブレット端末の導入(平成30年度、平成31年度)を、平生中学校においては、各クラス1台の電子黒板・書画カメラ・パソコンの導入(平成30年度)を進め、学力の向上につなげていきたい。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	学校のICT化が遅れることなく、学力の向上を目指し、年次的に整備を進めてほしい。
------	---	--------	--

社 会 教 育

社会教育

基本方針『学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進

と学習成果活用の促進』

青少年健全育成活動の推進

・ **平生町青少年健全育成推進大会**を11月に開催した。大会では、少年の主張受賞作品の発表と表彰のほか、善行者の表彰を行った。また、今年度新たな試みとして、大会アトラクションに「毛利治郎 トーク&ライブ」を実施し、音楽とトークで来場者に地域活動やボランティア活動の大切さなどを楽しみながら解りやすく伝えることができた。

・ 青少年の犯罪防止と交通安全を目的に、**育成センター車による見回り**や、防犯ボランティアによる月2回の**夜間防犯パトロール**を実施した。また、有害図書の点検巡回指導として、**子ども環境クリーンアップ作戦**を実施するなど、地域や生徒指導委員会、警察等関係機関と連携し組織的な取組を行った。

・ 地域の青少年の健全な育成を図ることを目的として平成24年度から実施している「**未来を担う平生っ子育成促進事業**」では、今年度も全7地区から申請があり、どんど焼きやイモの植え付け、凧上げ、クリスマス会など多様な事業を実施した。町民会議独自の事業としては、平生幼稚園で餅つきを実施するなど、子ども達が地域とふれあうことにより、地域ぐるみで子ども達の成長を支える機会を提供することができた。

・ 町子ども会活動については、昨年度好評であった、「夏休み企画」**子ども会研修旅行**を8月に実施した。由宇青少年自然の家において実施した研修旅行では、33名の児童とその保護者の参加があり、研修施設の指導者により体験研修として七宝焼き作りを行った。子ども達は他校の児童や異年齢で交流を図ることにより、交友範囲の拡大と規範意識の向上が図れるなど、夏休みの良い思い出づくりの場を提供することができた。また、秋の文化行事では、子ども達やその保護者約100名が参加する**長い巻きずし作り**にチャレンジした。約24mの巻きずしを完成させ、行事を盛り上げることができた。

・今年度14歳を迎える中学2年生を、地域・家庭・学校が連携してお祝いするため、平生町青少年育成町民会議と平生町教育委員会、平生中学校の共催により、第4回「**立志の集い**」を平生中学校体育館において開催した。保護者や地域の方々が見守る中、中学2年生全員が自分の志を発表し、生徒は目標を定める事や、学びへの意欲の大切さを再認識することができた。

・**スポーツ少年団**については、加入年齢が6歳から3歳へ引き下げられたことから、全団が集う交流大会にて、アクティブチャイルドプログラムの研修会を行い、幼児受け入れのための体制を進めた。

生涯学習の推進

・生涯学習の推進については、町民憲章の第5項「**文化を創造し 若い力を育て 伸びゆくまちをつくります**」の具現化に向けて、取り組みを展開した。本年度も**啓発ポスターや標語募集**を行い、ポスターについては31点、標語については379点もの応募があった。優秀作品については、秋の文化行事期間中に**花いっぱい運動**の優秀団体とともに、生涯学習表彰式において表彰した。

・**生涯学習まちづくり出前講座**については、各小学校や地域の団体から多くの申し込みがあり、延べ34団体、962人が受講した。また、広報に掲載している生涯学習推進だよりのコーナーでは、各地区の地域交流センターや勤労青少年ホーム利用団体の会員数減少を食い止めるため、平成28年度から各種サークルの紹介に特化したものに変更した。29年度においても毎号2団体の紹介を掲載し、29年度末で44団体の紹介を行うことにより、生涯学習意識の高揚を図った。

人権教育の推進

・今年度も人権教育と啓発を推進する事業として、**平生町人権学習講座**を3日間にわたり開催した。1日目は、「一人ひとりの人権が尊重されたまちづくりについて考えよう」と題しフィルムフォーラムを開催した。2日目は、平生町出身でKRY山口放送報道部の國本泰功氏をお迎えし、「放送と人権～ニュースキャスター・ラジオパーソナリティー・記者・番組ディレクターとして心がけてきたこと～」と題した講演会を開催した。3日目は、「困難をかかえる子ども・家庭への支援～スクールソーシャルワーカーの活動を通して～」について、いわかね社会福祉事務所の岩金俊充氏をお迎えし講演会を開催した。3日間の開催期間中、延べ187人の受講があり、人権意識の高揚を図ることができた。

・昨年度に引き続き、**人権コラム**「つながり めくもり」を毎月広報「ひらお」へ掲載し、3月号で87回を数えることとなった。また関係者が各種研修会に参加し、人権教育の推進について意識の深化を図った。

文化活動の推進

・平成5年10月に堀川公園に移築された**堀川南蛮樋上屋の全面改修**を実施した。改修にあたっては、既存の上屋と同じ建造物を建築するものとし、平成5年に移築した際、再利用されていたロクロ、心棒、軸受、板戸の一部については再度活用し、改修を行った。

・10月11日、**第52回平生町音楽鑑賞会**を開催した。出演者に「ワヨウセイヨウ」をお迎えし、尺八・箏・ギター・パーカッションのコンサートを開催した。ジョン・海山・ネプチューン氏ほか3名による和楽器と西洋楽器の国際色豊かな演奏により、美しい日本の曲の素晴らしさを来場者に届けた。また、昼の部では、平生小・佐賀小学校の子ども達が演奏するリコーダーと出演者が共演するコーナーを設け、リラックスした環境のなか、普段なかなか聴くことができない生の演奏を小・中学生に届けるなど、芸術文化に対する意識の醸成を図った。

社会教育施設の整備

・勤労青少年ホームトレーニングルーム照明の一部をLED照明に交換し、利用者の学習環境を改善した。さらに、歴史民俗資料館事務所空調の改修を行い事務環境の改善を図った。

・体育施設においては、体育館および武道館のフローリングの一部修繕を行い、安心して利用できるよう改善した。また堀川公園にある、藤棚が老朽化により、崩落の危険を生じたので、緊急に仮応急を施し、改修工事を行った。

読書活動の推進

・子どもの読書活動の推進については、子どもたちが自主的に読書習慣を身に付け、生涯にわたって本と親しむことができる環境づくりを推進するため、「第二次平生町子ども読書活動推進計画」により、昨年度に引き続き、事業を推進した。

・家庭、地域における子どもの読書活動の推進を図るため、「劇団すぎのこ」による人形劇を平生幼稚園で11月に開催した。また、ボランティアの読み聞かせの技術向上を目的とした、絵本読み聞かせ講座を9月に開催した。「楽しいエプロン・パネルシアターへようこそ」と題した講座では、エプロンやパネルを舞台に見立て、場面を様変わりさせる手法により、臨場感溢れた物語を楽しく伝える手法を学ぶことができた。

・「夏休み子ども移動図書館 子ども文庫」を開催し、夏休み期間中の読書環境の充実に努めた。また、「児童向け移動図書館」として、保育園・小学校へ1,600冊を超える配本を実施した。「一般向け移動図書館」では、リクエストに応じた本の配布を行うと共に、館内の展示コーナーや掲示板・広報で新着本の紹介を行い、読書機会の拡大を図った。

・ひらお図書館まつりを昨年度に続き開催した。「本のリサイクルコーナー」や「お話し会によるイベント」を実施し多くの来館者を迎えることができた。

・子ども達の郷土を愛する気持ちを育むため、平生町郷土かるたを作成した。佐賀小学校・平生小学校の6年生が平成27年度に文案を作成し、28年度に作画を行った。29年度に編集及び印刷を行った後、完成したかるたを、町内各小・中・高等学校や各地域交流センター、制作に携わった子ども達等に贈呈し郷土愛の醸成を図った。

歴史民俗資料館

・平生町歴史民俗資料館では、町内の遺跡や古墳からの出土品及び絵画や掛け軸など文化財を保管・展示した。特別展示では、四季折々の風景を和紙で表現する「自然流ちぎり絵展」や、熊本地震で活動した日本赤十字や自衛隊の支援活動を紹介する「熊本地震復興支援活動写真展」、大正から昭和にかけての町内の街並みや校舎、祭りの様子などを紹介する「なつかしの平生写真展」、曾根墨遊会から出展いただいた「水墨画展」を開催し、地域文化の向上と文化団体の活性化を図った。

・平成30年3月には、郷土の維新の志士「白井小助」について、歴史講座を開催した。「長州の山の神 白井小助の晩年」と題した講座には多くの来場者があり、平生町の歴史について理解を深めると共に、明治150年に向け機運の向上を図った。

阿多田交流館

・阿多田交流館は、当時を偲ばれるこの地に平成16年に開館し、平和教育の学習の場や、地域交流の場として活用されており、本年度約3,400人の来館者があった。

・平成30年3月には広島広域都市圏協議会（広島市を中心に近隣24市町で構成）による、広島広域都市圏ふるさとの魅力発見ツアーが実施され、圏域内から38名の参加者が柳井市と郡内3町を観光した。平生町では阿多田交流館において、阿多田半島の歴史や太平洋戦争時の貴重な資料を見学した。ツアー参加者からは回天の歴史を詳しく知ることができ大変参考になったとの感想も聞かれるなど、命の尊さや戦争の悲惨さ、平和の大切さをアピールするとともに、圏域住民の一体感、広島広域都市圏での連携を図ることができた。

生涯スポーツの推進

・平成25年度策定した「平生町スポーツ推進計画」4年目を迎え、その計画の基本施策として、健康及び体力の保持増進のためにラジオ体操の普及啓発を掲げており、曾根・佐賀・大野・平生まち・むら地区のコミュニティ協議会の主催で「**ラジオ体操会**」が開催されており、スポーツ推進員等による指導が行われた。また健康・体力づくりの意識と実践意欲の高揚を図り、生涯スポーツを推進するためバレーボール大会等の各種スポーツ大会を開催した。

なお、ファミリースポーツレクリエーション大会については、開催の方向で準備を進めていたが、衆議院選挙と重なり中止とした。

「**平生町駅伝競走大会**」については、全長11.9kmのコースにより、5区間の部門と7区間の部門で43チームが参加した。

平成29年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	文化活動を推進します		
事業名	堀川南蛮樋門改修事業(新規)		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度	<input type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	倒壊の危険性のある町指定有形文化財「堀川南蛮樋」の全面改修を行い、保存する。		
事業の内容	改修については、既存の上屋と同じ建造物を建築するものとし、平成5年に移築した際、再利用されていたロクロ、心棒、軸受、戸板については、一部再利用した。その他安全対策として、転落防止のため、新たにガードパイプを設置した。		
事業の対象	町民		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	- 千円	- 千円	2,274 千円
決算額に占める特定財源額	-	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>・堀川は平生開作の時、両側に造成された塩浜への海潮の導入路として造られた。その後、江戸末期ごろから効率の悪い塩浜が廃止され耕地化されていく中で、海水防禦と雨水排水を図るため、堀川南蛮樋は明治の終わりから大正にかけて建築されたと推定されている。平成5年に現地へ移築され、平成7年3月に町指定有形文化財となっている。</p> <p>・このような貴重な文化財を後世に残すため、また老朽化により倒壊する危険があったため、南蛮樋の改修を実施した。</p> <p>・改修が完了した南蛮樋は、当時の様子をそのまま見学できる貴重な資料の一つとなっており、来訪者にわかりやすく安全に見学できる場を提供している。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/>29年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>町指定文化財の保護と併せ、その活用についても検討してほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---------------------------------------

平成29年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の 基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯学習社会の実現を推進します		
事業名	平生いきいき大学講座事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	各学習講座を受講することで、受講者の趣味や教養を深めるとともに、受講者同士の交流を通して、生涯学習の大切さを再認識してもらうとともに、高齢者の生きがいや仲間づくりを創出する。		
事業の内容	町内在住のおおむね65歳以上の方を対象に年間7講座を開催 平成29年度学級生人数:73人 講座名 ・想いを伝えるエンディングプラン(生活設計) 7/12 ・苔玉づくり(園芸) 8/8 ・大雨ワークショップ(防災) 9/13 ・シニアのための交通安全講習(交通安全) 10/3 ・転ばぬ先の杖(健康) 11/22 ・歌って楽しく元気よく(合唱) 1/16 ・食生活と健康(調理実習) 2/26		
事業の対象	町内在住のおおむね65歳以上の方		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	20 千円	16 千円	13 千円
決算額に占める 特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の受講者アンケートの回答をもとに各講座のテーマを決定し、受講者に関心のある多種多様な講座を開設している。 ・事業費は、報償費(講師謝礼)のみである。 ・高齢者の中には、同世代や地域間での交流のきっかけを探しておられる人もいます。人間性豊かな心のふれあいの醸成と、いきいきとした充実した毎日の実現を目指すためにも必要な事業である。また、講座がきっかけとなり、受講者の町内行事への積極的な参加にもつながっている。
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	受講者アンケート結果を活用しながら、講座の内容を充実させるなど、今後も継続してほしい。
------	---	--------	---

平成29年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	文化活動を推進します		
事業名	歴史講座事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	町内にゆかりのある人物や郷土の歴史的な出来事についての講座を開催し、町民に平生町の歴史に触れあう機会を提供することにより、郷土を愛する気持ちを育むとともに生涯学習の推進を図る。		
事業の内容	・歴史講座 平成30年3月3日、平生図書館2階研修室において、柳井市郷談会会長の松島幸夫先生を講師に迎え、長州の山の神「白井小助の晩年」と題して、講演会を開催した。		
事業の対象	町民		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	15 千円	20 千円	20 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり B ほぼ目標どおり D 目標を大幅に下まわる

判定説明考察	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が気軽に郷土の歴史に触れる機会を創出することにより、郷土を愛する気持ちを育むとともに生涯学習の推進を図ることができた。 ・明治150年を迎えるにあたり、郷土の維新の志士である白井小助(介)の講座を開催することにより、その機運の醸成を図ることができた。 ・歴史民俗資料館には、平生町にまつわる貴重な資料が多数展示されているが、様々なテーマによる講座の開催は、資料館への来館者増加にも寄与するとともに、平生町の歴史に触れるきっかけづくりにも繋がっている。 ・歴史講座参加者:約60名
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	来館者の増加につながるよう、チラシの工夫、ホームページの活用など積極的な情報発信に努めてほしい。
------	---	--------	--

平成29年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	文化活動を推進します		
事業名	平生町郷土かるた作成事業(新規)		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度	<input type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	「平生町郷土かるた」を作成し、子どもたちの郷土を愛する気持ちを育む。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度：町教育委員会及び平生町郷土史研究会が郷土かるたの企画・立案 平成27年度：佐賀小学校及び平生小学校の6年生に読み札の文案の作成を依頼 平成28年度：佐賀小学校及び平生小学校の6年生に取り札の作画を依頼 平成29年度：かるたの編集及び印刷を行い、500セット作製 		
事業の対象	町民		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	- 千円	- 千円	1,118 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	0 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<p>・この事業は、佐賀小学校及び平生小学校の6年生が、平生町の歴史や史跡を調査、学習し文や絵を考え、これを平生町郷土史研究会において編集作業を行い、教育委員会において印刷した。完成後は、町内各小・中・高等学校や、各地域交流センター、作成に携わった子どもたち等に贈呈するとともに一般向けに1セット1,500円で販売している。</p> <p>・かるたの内容は平生町にまつわる歴史や史跡だけでなく、文化や名所など多岐にわたるため、町民が分かり易く平生町の歴史や文化等を学ぶことができるものとなった。 またこの取組は、明治150年に向けた平生町の取組の一環として、機運の醸成を図る施策となっている。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 29年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	一過性のものとならないよう、学校や地域で長く活用できる工夫をしてほしい。
------	---	--------	--------------------------------------

平成29年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	スポーツ推進事業(町内駅伝競走大会)		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	スポーツの推進と親睦融和を図り、併せて生涯スポーツ推進の一環として町民のスポーツに対する気運を醸成する。		
事業の内容	平生中央児童館前を出発、佐賀小学校をゴールとする平生町内を走る全コース11.9Kmの駅伝競走大会を実施する。小学生・中学生女子・一般2部・一般女子の部は7区間で、中学生男子・一般1部の部は5区間で行う。 体育協会陸上部とスポーツ推進委員協議会が主管となり、多くのスポーツボランティアの協力で運営されている。		
事業の対象	町内団体(学校、企業、地域)		
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費(決算額)	514 千円	973 千円	978 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る

<p>判定説明考察</p>	<p>参加申請チーム数44チーム(小学校:7チーム、中学校男子:13チーム、中学校女子:8チーム、一般1部:6チーム、一般2部:8チーム、一般女子:2チーム)の申込があったが、申請後、一般女子の1チームが欠場して43チームの参加となった。 平成27年度は雨天予想により、小学校の部が不参加となり5部門での開催であったが、平成29年度は前年度に引続き、全部門(6部門)での開催となった。 近年のマラソンプームの影響と思われるが、一般の参加チームが増えてきている。</p> <p>その一方で、駅伝の運営については多くのスポーツボランティア(中継所役員、交通安全指導員、集計担当等)が必要であるが、人員の確保に毎年苦慮している状況である。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>B</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>スポーツボランティアの確保に苦労があるようであるが、地域に協力を求めるなど、運営体制を充実させてほしい。</p>
-------------	-----------------	---------------	---